

地域と「とも」にある学校づくり

「義務教育学校」がスタートして3年目の季節をむかえました。今年度も「恕の心」と「生きぬく力」を兼ね備えた未来を担う「多久市民」の育成を目標に、子どもたち一人ひとりが『自己肯定感』に満たされた学校生活を送ることができるよう努めていきます。

各学校では、この『自己肯定感』を育むことを基軸として、豊かな心と夢を持ち続けることができるよう「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育活動を展開していきます。

また、平成29年度から地域とともにある学校、地域に開かれた学校運営を目指し、「コミュニティ・スクールの推進を図っています。開かれた学校づくりでふるさと「多久」を愛し、「志」を果たしていくことができる子どもたちの未来を創りあげることができればと思います。昨年度には『自己肯定感』を育む教育やコミュニティ・スクールの推進等について紹介したパンフレットを作成し、地域と「とも」にある学校づくりに努めています。



▲作成したパンフレット

学校名	東部校	中央校	西溪校
校長	中西 順也	福田 健成	川崎 朗
副校長	白山 亮一	田崎 正剛	眞子 眞波
教頭	千北 昌子 馬場 司	紫村 直美 大島 和子	古賀 一成 富永 俊則
児童数	217名	549名	183名
生徒数	99名	260名	77名

今月の論語

紫の朱を奪うを悪む

紫の色がよろこばれ、もともとの朱色があるそかにされて残念です。

今月の楠宅放送は、東原庵舎西溪校9年 陣内 涼さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「再会」

今春、訪問者に感激した。かつて担任し、夜な夜な家庭訪問した男子生徒だ。思わず、彼が抱っこしていた幼子ごと抱きしめた。

金髪で気楽に始めたアルバイトで能力を認められ、正社員になり、管理職になり、遂にはその親会社の管理職に就いた。地元を離れ、地元の友人との連絡を絶ち、生活の基盤を築いた十数年。今春、更に大都会のエリアを任されることになり、母子を田舎に戻すことを決意し、入学式のためにわざわざ帰省していた。親として子育てに真剣に取り組む、家庭を築こうと頑張っている。

報われないことが圧倒的に多い教師という仕事だが、時にはこんな感動が待っている。

「先生に嘘ばかりついたよね。先生、十数年仕事に打ち込んだよ、本当ばい。本当に悪いことしよらんよ。」「わかる。言わなくてもわかるよ、顔見ればわかる。信じたつたよ。」

教育長 田原 優子

市民文芸

◆可能性 それが無いのも 可能性 見えないものが 見えるとこまで 野崎 隆幸

◆我が夫の 赤飯好きを 知る友が 湯気のがるるを 届けてくれる 梶原恵美子

◆唄、おどり 東部太鼓で 祝いたり 西溪公園 高取さんまつり 浦野 嘉恵

◆散り際の 潔さをば 見上げおり 永久にさんざめく 百年桜 川浪 信子

◆退位即位が 越年を祝う 感覚で 万人の心 充たしてゆきぬ 尾形 節子

◆杉の木の しかと掴みし 春の土 本村 則子

◆ふらこころを 一人占めして 風を呼ぶ 倉成 皓二

◆他愛なき 会話はづみし 春の暮 おおや はな

◆口ずさむ フォークソングや 草青む 中嶋 清子

◆花散つて 元の静かな 寺となり 武富 律子

◆平成と 令和を結ぶ 十連休 西山 残月

◆楽しみは 逃さぬように 袋縫い 大谷 和

◆縁結び 神様だけが 知っている 高塚ちかこ

◆ほほえみの 遺影は今日も 聞き上手 井上 東子